新医学系指針対応「情報公開文書」改訂フォーム　単施設研究用

以下、本文---

院内がん登録情報と電子カルテ（診療録）のリンケージによるがん生存率の因果推論的研究関する研究

１．研究の対象

2009 年 1 月～2015 年 12 月に当院でがん治療を受けられた方

２．研究目的・方法

１．目的

がん生存率に影響を及ぼす要因としては社会経済格差について考慮する必要があり、とりわけ地理的剥奪指標（ADI: Areal Deprivation Index）用いたがん生存率の地域格差と、その要因（年齢、性別、がん部位、ステージ（進行度）、治療、および合併症など）に関する定量的評価は有用であり、英国や米国などでは、地理的剥奪指標を用いた生存率格差についての研究が盛んに行われ、格差縮小に向けた取り組みも始まっている。

ここで、地理的剥奪指標とは、日本国内に居住する成人人口（20～89 歳）を代表する行動と意識に関する調査（日本版総合的社会調査；JGSS）に基づき、国勢調査における高齢者・母子世帯割合、賃貸住宅割合、失業割合、職業割合などと対応づけを行い、小地域ごとの世帯数で重みづけした社会経済指標の一つである。

本研究の目的は、大阪大学医学部附属病院における院内がん登録情報と診療録情報のリンケージによって、がん患者における臨床経過との関連が大きい社会経済指標について検討することである。先行研究では、大阪府がん登録情報を用いた地理的剥奪指標によるがん生存率格差について明らかにした先行研究がある（Ito, Nakaya, Rachet, et al, *Acta Oncol* 2014;53(10):1423-1433）。

さらに、院内がん登録と診療録情報のリンケージによる新たなデータ利用手法の開発は今後も重要性を増すと考えられる。

２．方法

【対象および手順】2009 年 1 月～2015 年 12 月の期間における外来および入院患者を対象に、院内がん登録情報と診療録情報のリンケージにより、対象とするがん患者を抽出し、診療録 ID（カルテ番号）とは異なる研究用 ID（連番）を新たに付与した後に、研究用 ID（連番）と住所情報のみを切り出す（『作業用データセット』の作成）。切り出した『作業用データセット』を用いて国土数値情報（国土地理協会 11 桁コード）

により定義される町丁字レベル位置参照情報に変換後、緯度経度に基づく地理空間情報（GIS）を得る。この地理空間情報（GIS）に基づき、先行研究における国際基準に準拠した地理的剥奪指標（ADI）を付与した後、再び研究用 ID（連番）を照合キーとしてがん患者抽出データと突合し、解析に不要な全ての個人情報（それだけで個人が特定される可能性のある情報）を削除して『解析用がん患者データセット（匿名加工済み）』を構築する。。

【解析デザインおよび方法】

- 因果推論モデル Causal inference model による分析疫学
- 対象者数（のべ）：約 20000 症例
- がんの部位、進行度（ステージ）、治療法の違いなどを考慮し（効果の調整を行い）、地理的剥奪指標に基づく社会経済格差とがん生存率の関連を評価

３．研究に用いる試料・情報の種類

院内がん登録情報およびカルテ情報のうち、がん罹患日、進行度、治療内容（医療行為、医薬品等）、居住地の緯度経度情報（GIS コード）、性別、年齢（に変わるもの）等を用いる。ただし、個人の特定ができないように全て適切な匿名加工を施したもの。

４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：
国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座環境医学　喜多村祐里
大阪府吹田市山田丘 2-2 TEL:06-68789-3922

---以上